

初めて挑んだ僕らの夏



今年度も内子町から多くの皆さんが全国の舞台に挑み、活躍するニュースが届いています。大舞台での輝きと、その裏で重ねてきた努力は、いつも私たちに勇気と希望を与えてくれます。

今回は「まちのニュース 特別編」第一弾。「内子町がんばる子ども応援金事業」に報告があった人のうち、初めて全国大会に出場した小・中学生の皆さんを紹介します。挑戦を経て感じたこと、見据える次の目標など、それぞれの思いを聞きました。



第48回全日本選抜少年野球交流大会／第3位
愛媛クラブ **宮脇旭陽** (天神小)

もっとレベルアップして、勝利に貢献したい

小学3年から野球を始めました。所属するチームとしても初めての全国大会出場です。今回は試合には出場できませんでしたが、たくさん勉強になりました。相手は体格がよくてバッティングが強く、強いボールを外野まで飛ばしていました。それでも、次の動きを常に考えて動く守備は、自分たちのチームのほうが上。全国の強豪相手でも、次はきつと勝てると思っています。

9月には6年生最後の大会があり、10月からは自分たちが最上級生に。まずは自分の課題を一つ一つ改善して、レベルアップしていきます。勝つためには何をしなければいけないのかを考え行動する姿を、下級生にもしっかりと見せたいです。次も絶対に全国の舞台に立って、勝利に貢献したいと思っています。



JYC インターシティトリムカップ (U-15) 2026 リヴェント
FC Livent **前澤結人** (五十崎中)

一球への集中力を大切に、頼られる内野手へ

愛媛県の選抜チームの一員として出場しました。県内40数チームから選ばれた選手たちはみんな集中力が高く、気が引き締まっていました。一球一球に対する意識を自分も大切にしながら、と改めて思います。僕は内野守備が得意で、ボールを確実に、丁寧に取ることが心がけています。大会で一番に残っているのは、1点リードで迎えたランナー2・3塁のピッチ。打たれたら逆転されるという場面で、強い打球が自分のところへ——。そこでしっかりアウトを取れたことで「集中できていたな」と自信になりました。

僕は、福岡ソフトバンクホークスの今宮選手です。守備範囲が広く、球際に強い頼れる選手だと思います。僕もこれから走り込みをしたり、たくさんノックを受けたりしてレベルを上げ、チームを救える内野手になりたいです。



阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会 2026 出場
ウイングス サウス Wings **中山 駆** (内子小)

自分の強みを生かして、さらに高みを目指したい

全国大会では全試合に出場しました。いろんなチームと対戦して、それぞれ特徴があると感じました。体の大きいフォワードにボールを集めるチーム、選手同士がポジショニングを入れ替わりながら戦うチームなど、強みを生かして戦っています。また強豪相手だと攻められる時間が長く、こちらの運動量が増えます。僕は右サイドハーフで攻撃も守備も必要なポジション。もっと体力をつけたいと感じました。

自分の強みは、相手を突破してボールを運ぶ力。自分から仕掛けて、チームのチャンスを作るのが役割だと思っています。僕は、元ブラジル代表のロナウジーニョ選手。ドリブルもアシストもハイレベルで、圧倒されます。僕も全国での経験を練習に生かし、もっともっと高みを目指したいです。高校では1年からレギュラーとして活躍するのが目標です。

